

=====
07.7/4-6 IPPJ 説明会の結果レポート
=====

2007・7・19 作成
「根子岳風力発電を考える連絡協議会」

須坂市主催で3ヶ所で実施された。

7/4(水) 市内公民館 19:00-21:30 約100人参加
7/6(金) 峰の原 09:30-11:30 約 50人
7/6(金) 仁礼会館 19:00-21:00 約 50人

出席:仁礼会:駒津事務局長、(仁礼会館では高橋理事長もひな壇に)

IPPJ:清田開発部長+依田須坂支店長

日本気象協会:魚崎耕平氏、

須坂市:三木市長(公民館のみ出席)+善財部長+渡辺課長(司会)+山崎代理

7/4 市内公民館

●善財部長あいさつ:

災害・水源・動植物などへの影響心配する意見もでている。風力発電だけでなく、環境や生活のあり方も考えてほしい。

隣接の上田市・・・

●駒津事務長あいさつ:

温暖化対策の事業なので賛同した。事業性を考えて判断したい。よく調査し影響の少ない方法を選択したい。

●IPPJ 清田開発部長の説明:(他の2箇所もほぼ同一内容)

◎なぜ風力発電か? 温暖化の影響は深刻。京都議定書目標。風力発電はCO2削減になる。世界の風力導入量比較。県別比較。風況適地は限定され、峰の原は見込み有り。

◎事業概要。現地法人つくり納税面で地元寄与できる。今年8~9月の開設目標(*@仁礼会館)直江津港から輸送(*)。搬入路はクラブハウス下~料金所~登山道北。全長6km。5m幅。中電下八町変電所に接続(*)。距離16km。

11~16基の予定で、調査結果みて決定する。発電量とCO2削減量試算値。土地改変面積(搬入路込み)は4~6ha。基礎図面-茨城県常陸太田市里美牧場(県立自然公園普通地域)の例。残土量397m³。コンクリ量も同量(*)。

羽根は搬入路のカーブでは斜めに立てて運ぶ(起立機使用)(*）。組立ヤードは50x25m。重機下などは鉄板敷く(*)。法面やヤードは工事終了後植栽する。里美牧場では牧草で植栽(*)。峰の原では専門家に相談して植栽する。

◎回答書の説明。追加調査項目は、低周波、地形地質、水質。
水源地付近は改変しない(*)。杭打ち工法は採らない(*)。
バードストライクの発生確率データ(*)。日本風力発電協会作成と米国のデータ例。
景観調査地点は増やすよう検討中。メリットとデメリットを量的比較し最終結論を出す。

7/4 市内公民館での質問と回答(約 60 分) (回答 A は特記ない場合 IPPJ 清田氏)

●Q 市内男性。送電はどうなるか？

→A 発電は640V、鉄塔内の変圧器で2~3万Vに昇圧して16km送電(*)。
送電線直下で電磁波200mG(*)。家庭内と同程度以下。87年WHOで無害とされている。

●Q 市内男性。雪・氷・雷・風向変動について検討したか？阿蘇山での油漏れなどの事故例をどうみているか？→A 北海道でも運転されている。エコテックニア社製品は油漏れしない。

Q 不明な点は次回までにチャンと調査して回答されたし。

●Q 市内男性。水源に近く影響が心配。

→A 昨年11月の配置図は仮のもので、位置を変更する(*)。

●Q 峰」男性。クロマメノキの調査や評価の方法は？搬入路は急勾配だが舗装するのか？

→A 舗装しない、砂利道のまま。保守員は4WD使う。

●Q 市内男性。仁礼会に質問します。事業性を判断とは？→A 駒津氏。継続可能かの判断。

事業実施を自主性をもって判断するのか？→A 駒津氏。そうする。

入山禁止看板の趣旨は？→A 駒津氏。山林に入るのは禁止。かつてによその家の庭に入れないのと同様。登山道はOK。調査塔地域に立入るなら連絡してほしい。

●Q 峰の原男性。観光に影響して地域衰退にならないか。製造から撤去まで多大な負荷がかかる。17年後に更地にもどすというが自然の原状回復は困難。仁礼会のメリットは何か。

→A 風車見物もあり、単純にはいけない。

→A 駒津氏。地域が衰退するとは決めつけられない。仁礼会のメリットは賃貸料と温暖化防止。

●Q 峰の原女性。事業は17年しかない。撤去後の自然回復は困難。補助金申請1年延期の理由は。

→A 最短スケジュールで考えていたが、延びた。来年5月も最短での予定。

●Q 峰の原男性。CO2削減量の日本全体での比率はどれ位か。

→A 少ない割合かもしれないが、積み重ねが大事。

●Q 市内男性。県の水源保全条例への考え方は。→A ？

■渡辺課長閉会： 今日でた意見は後日まとめて市民に広報する。

7/6 峰の原会場での質問と回答

●Q 峰の原男性。今日発言できるのは区民のみか？→A 限定しない。

●Q 峰の原男性。1)以前の説明会で「イヌワシに影響があれば計画を中止する」と回答したが、覚えていますか。

A 覚えていない。何らかの影響はある。専門家が影響の程度を評価し、影響ありと判断すれば計画中止する。(回答者が興奮し、司会が注意する場面も)

2)長野県作成の影響想定マップで「レベル1」地域が計画地に含まれているが、どう判断しているか。

A マスキングなしのマップを県から受け取ったが、他言しない約束であり、ここでは言えない。

3)レベル1地域なら「きわめて重大な影響を与えるおそれ」のある場所です。また、県の告示によると、保護育成計画で「生息環境の改善」が義務付けられます。考慮して下さい。

●Q 峰の原男性。住民説明会は須坂市が中心となって進行してもらいたい。

説明会では、回答がその度に変ることのないよう、録音、できれば録画しておいてほしい。

→A 渡辺課長。今日は録音している。

●Q 峰の原女性。いつも説明が具体的でなく、どういう調査をするのかわからない。佐田岬では騒音が問題になっている。

A 魚崎氏。評価書ではわかりやすく書く。

●Q 峰の原男性。騒音は「ささやき声」程度というが、もともとが静寂地なので耳障りになる。静寂性がこの観光の長所でもあり、営業に影響がでる。

A 魚崎氏。「ささやき声」程度でもかなり耳障りになることがある。地形や風向きで聞こえる条件が変わるので、いろんな場所で長期間かけて調査する必要がある。

Q 実際に近いデータを予測し、「想定しなかった」ということのないようにしてほしい。

●Q 峰の原女性。国立公園は景観と生態系を守る場所。イヌワシへの影響が心配。風車は既に1000基以上も全国にあり、観光客が増えるとは思えない。風車の故障のうち自然現象に原因するものが38%もあるという。水源への影響や災害不安がある。このような場所では補助金のムダ使いになる。温暖化防止には省エネが効果的。

●Q 峰の原男性。1)低周波音は防御する手段がない。植生、地形、地盤により伝播程度が異なる。騒音評価も、ここは本当に静かな場所で、これが観光の長所でもあるので、騒音の多い他の場所との相対的比較ではなく、ここでの特徴をふまえて評価してほしい。

2)「工事車両の影響は軽微」と断定しているが、それはおかしい。10トンダンプが坂道をフルスロットルで登れば、すごい騒音だ。風車1基で67台なら往復134台、10基で1000台以上になる。トラックは低騒音・低排ガス仕様車なのか。交通事故のおそれも心配。(注、67台x2x16基=2144台。生コン車も同程度か?)

A 魚崎氏。1) 地形や空気条件などの影響も考慮して何日間も調査する。
2) 使用トラックの騒音や排ガスの程度も調べる。工事車両走行の影響は調査する。(注、「影響は軽微(だから調査省略)」を事実上撤回)

●Q 峰の原男性。水質について、コンクリのアク、車両排ガスの影響はどうか。

A 魚崎氏。アルカリ水が漏れないよう工事する。漏れた分は中和する。排ガスの影響も検討してみる。(注、漏れたアルカリ水をタンクに回収して酸で中和するのか？ 中和水は放流？)

7/6 仁礼会館での説明会結果

●田中区长あいさつ:

地球を壊すようなものでないなら推進したい。

●高橋理事長あいさつ:

風力発電の話は駒津ケンイチ前理事長のとき最初に出た。(*)

温暖化は大変なことだ、IPCC,+6度 C、CO2 削減・・・。

●善財部長あいさつ:

市は情報提供に努める。災害、水源、生態を心配する意見出ている。

地元区、市の同意が必要。県も慎重に検討すべき地域としている。

●駒津事務局長あいさつ:

温暖化の影響は深刻。IPPJの事業性を見極めて判断。今後の調査結果見て判断。

●IPPJ 清田氏の説明(7/4 公民館と同じ部分は省略)

現地法人は今年8-9月の設立めざす。(*)

工事用搬入路は道幅5m、保守用道路は道幅3m。(*)

質問と回答

●Q 仁礼区女性。水源は絶対大丈夫か。→A 調査中です。

基礎工事は深いですが水源は保証できるか。→A 影響調査します。

景観に悪いのでないか。

イヌワシに影響でると言っている。→A 調査結果みて判断します。

外国製風車は日本の風に合わないという。

→A ドイツ・デンマーク製は平坦地用だが、スペイン製は山岳地でも問題ない。(*)

五六災害の危険性ないか。

長い羽を運ぶ幅広い道作るのでないか。

円筒形風車の方がいいのでないか。→A 風向変化には利点あるが大型化困難。

(質問の直後、男性の大声ヤジ「冒頭の説明と重複して説明しなくていいから」と。威圧的雰囲気で一瞬場内凍る)

しばらく後で女性が補足。私は風力発電そのものに反対している訳ではなく、場所が問題だといっている。→A 事業は補助金 1/3、銀行融資 2/3 でやる。銀行融資は補助金より厳しい審査があるので、心配はいらない。

●Q 仁礼区男性。1) 温暖化対策で政府も補助金だしており、推進に賛成。

2) イヌワシは50年前には見たが、この40年間一度も見えてない。風車はゆっくり廻り、衝突するはずがない。→A「私も見たことない」。羽回転は毎分10回転位で、羽先端速度は時速200kmくらい。里美牧場ではトビが通り抜けていったと聞いた。

→A 魚崎氏。実際、飛んでいる。広範囲に飛ぶので場所を調査している。

3) 若干の犠牲はある。反対派の人も CO2 出している。車にも乗らないとでもいうのか。

4) 市の態度は一度も聞いてないが、どういう対応か。

→A 善財部長。新エネルギー推進の立場だ。今回の場所での問題点は調査中だ。

5) 須坂市以外の者が反対している。黙っている人は皆賛成だ。新聞も考えて報道してほしい。

●Q 菅平男性。CO2 削減には賛成だが、場所が悪い。根子岳は地元の人々にとってシンボルだ。壊してほしくない。

●Q 峰の原男性。1) イヌワシを観察しているか。→A 魚崎。毎月のように飛んでいる。詳細な場所を調査している。

2) 短期間の調査でわかるのか。生態を知るには長い期間かかるはず。→A 魚崎。調査は限られた期間になるが、専門家や審議会委員に調査結果を報告し、調査不足だといわれれば従う。

3) 地元では隣同士で幼なじみに対立し、ストレスがたまっていく。

4) 日本の総電力の何%を発電できるのか。事業費 50 億円余もかける価値があるのか。懸念が過大でないか。→A 0.0 何%くらいだ。(注、2010 年で風力は全電力量の約 0.2%、根子岳はその 1/100 以下、従って、約 0.002%以下)

●Q 仁礼区男性。影響はないとはいえないが、わずかだ。憶測で反対せず、調査結果がでてから賛否をきめればいい。CO2 を50%削減するためには生活を変える必要がある。

●Q 仁礼区男性。私は風力賛成だ。地区外の者がとやかく言うことはない。反対している人はこの地に骨を埋める覚悟があるのか。

●Q 峰の原男性。1) 話合いの場なので話合う雰囲気やってほしい。

2) 説明会の会場は3ヶ所に分かれているが、会場毎に参加者に温度差がある。それぞれの地区の人が意見交換できる場を作ってほしい。

●Q 仁礼区男性。風力の耐久性は？ 保守はどうするのか？

→A 寿命は、羽根 20 年、鉄柱 50 年、契約は 17 年です。保守員数名が現地近くの別荘などを借りて駐在する。

●Q 仁礼区男性。仁礼会は事業者に土地を貸さないこともあるか？

→A 駒津氏。まだ未定。理事会で決定することになる。

「根子岳風力発電を考える連絡協議会」 事務局
〒386-2204 長野県上田市菅平高原 1278-2273 木村方
Tel/Fax: 0268-74-1833 E-mail: rochdale@ma.0038.net
<http://sugadairanr.com/default.aspx>